

津市監第166号

平成28年10月13日

津市長 前 葉 泰 幸 様

津市監査委員 高 松 和 也

津市監査委員 駒 田 修 一

津市監査委員 安 藤 友 昭

津市監査委員 青 山 昇 武

平成27年度財産区会計歳入歳出決算の審査意見について（提出）  
地方自治法（昭和22年法律第67号）第233条第2項の規定に  
基づき審査に付された下記の平成27年度財産区会計歳入歳出決算の  
審査意見について、別添のとおり提出します。

記

- 1 平成27年度榊原財産区会計歳入歳出決算の審査意見
- 2 平成27年度河内財産区会計歳入歳出決算の審査意見
- 3 平成27年度波瀬財産区会計歳入歳出決算の審査意見

平成 2 7 年 度

榑 原 財 産 区 会 計  
歳 入 歳 出 決 算 審 査 意 見 書

津 市 監 査 委 員

## 凡 例

- 1 文中及び表中に用いる金額は、原則として千円未満を四捨五入した。
- 2 文中及び表中に用いる比率は、原則として小数点以下第2位を四捨五入した。
- 3 文中及び表中に用いる面積は、原則として1平方メートル未満を四捨五入し、体積は、原則として1立方メートル未満を四捨五入した。
- 4 上記のように表記した結果、文中及び表中の合計数値とその内訳の累計値とは、一致しない場合がある。
- 5 表中の符号の用法は、次のとおりである。
  - 「0」「0.0」・・・金額、比率において、零又は該当数値がないもの若しくは単位未満のもの
  - 「-」・・・・・・比率において、±1,000%以上のもの
  - 「△」・・・・・・金額、比率において、負数のもの

## 平成 27 年度榊原財産区会計歳入歳出決算審査意見

### 第 1 審査の対象

審査の対象は、平成 27 年度榊原財産区会計歳入歳出決算、決算に関する証書類、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書である。

### 第 2 審査の期間

審査の期間は、平成 28 年 8 月 31 日から同年 10 月 12 日までである。

### 第 3 審査の方法

審査の方法は、同会計の歳入歳出決算について、主に次の諸点に着眼し、関係書類により照合審査するとともに、関係職員に説明を求め、例月現金出納検査の結果も参考とした。

- 1 決算の計数は、正確に表示されているか。
- 2 決算書等は、法令の定めるところにより、適正に作成されているか。
- 3 予算は、適正に執行されているか。

### 第 4 審査の結果

審査の結果、同会計の歳入歳出決算の計数は正確で、決算書等はいずれも適正に作成されており、予算の執行については、適正に執行されているものと認めた。歳入歳出決算の状況等は、次のとおりである。

#### 1 歳入歳出決算の状況

歳入決算額は 2,547 万 8 千円（表 1 参照）、歳出決算額は 2,547 万 7 千円（表 2 参照）で、歳入歳出差引額は 1 千円である。

歳入及び歳出それぞれの内訳は、次のとおりである。

#### (1) 歳 入

歳入の内訳は表 1 のとおりで、決算額の主なものは、財産収入 2,213 万 3 千円、繰越金 263 万 3 千円である。

表 1 歳入内訳表

(単位:千円・%)

区分 予算科目(款)	平成27年度				平成26年度		対前年度決算	
	予算現額	決算額			決算額	構成比	増減額	増減率
		金額	構成比	予算比				
財産収入	22,133	22,133	86.9	100.0	22,119	88.7	14	0.1
繰入金	3,674	710	2.8	19.3	0	0.0	710	0.0
繰越金	2,963	2,633	10.3	88.9	2,819	11.3	△ 186	△ 6.6
諸収入	2	2	0.0	100.0	1	0.0	1	100.0
計	28,772	25,478	100.0	88.6	24,939	100.0	539	2.2

#### (2) 歳 出

歳出の内訳は表 2 のとおりで、決算額の主なものは、財産費 1,817 万 4 千円、

諸支出金 383 万 5 千円である。

表 2 歳出内訳表

(単位:千円・%)

区分 予算科目(款)	平成27年度				平成26年度		対前年度決算	
	予算現額	決算額			決算額	構成比	増減額	増減率
		金額	構成比	執行率				
議会費	1,492	1,485	5.8	99.5	1,496	6.7	△ 11	△ 0.7
総務費	813	809	3.2	99.5	975	4.4	△ 166	△ 17.0
財産費	21,288	18,174	71.3	85.4	12,413	55.6	5,761	46.4
積立金	1,175	1,174	4.6	99.9	18	0.1	1,156	-
諸支出金	3,904	3,835	15.1	98.2	7,404	33.2	△ 3,569	△ 48.2
予備費	100	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	28,772	25,477	100.0	88.5	22,306	100.0	3,171	14.2

## 2 財産に関する調書

財産の平成 27 年度中の増減高及び平成 27 年度末現在高は、次のとおりである。

### (1) 公有財産

公有財産の状況は表 3 のとおりで、土地の合計面積は、山林の直営で 492 平方メートル減少したものの、山林の貸付で 492 平方メートル増加したことから、平成 27 年度中の増減はなく、平成 27 年度末現在高は 1,226 万 4,036 平方メートルである。

立木の推定蓄積量は、平成 27 年度中に 2,151 立方メートル増加し、平成 27 年度末現在高は 11 万 9,117 立方メートルである。

出資による権利については、平成 27 年度中の増減はなく、平成 27 年度末現在高は 84 万円である。

表 3 公有財産の状況

区 分		単位	平成26年度末現在高	平成27年度中増減高	平成27年度末現在高	
土 地	公共用財産(その他の施設)	m <sup>2</sup>	918	0	918	
	山 林	直 営	m <sup>2</sup>	1,860,799	△ 492	1,860,307
		貸 付	m <sup>2</sup>	10,402,318	492	10,402,810
	合 計		m <sup>2</sup>	12,264,036	0	12,264,036
立木の推定蓄積量		m <sup>3</sup>	116,966	2,151	119,117	
出資による権利		千円	840	0	840	

### (2) 物 品

物品は軽貨物自動車で、表 4 のとおり平成 27 年度中に増減はなく、平成 27 年度末現在高は 2 台である。

表4 物品の状況

(単位：台)

区 分	平成26年度末現在高	平成27年度中増減高	平成27年度末現在高
軽貨物自動車	2	0	2

## (3) 基金

基金は榊原財産区財政調整基金で、表5のとおり平成27年度中に46万5千円増加し、平成27年度末現在高は2,387万5千円である。

表5 基金の状況

(単位：千円)

区 分	平成26年度末現在高	平成27年度中増減高	平成27年度末現在高
榊原財産区財政調整基金	23,410	465	23,875

## 3 まとめ

平成27年度は、平成26年度から263万3千円の繰越金があったこともあり、財政調整基金からの繰入金が必要としなかったところである。引き続き、中長期的な視野に立った計画的な財政運営に取り組まれるよう望むものである。

平成 2 7 年 度

河 内 財 産 区 会 計  
歳 入 歳 出 決 算 審 査 意 見 書

津 市 監 査 委 員

## 凡 例

- 1 文中及び表中に用いる金額は、原則として千円未満を四捨五入した。
- 2 文中及び表中に用いる比率は、原則として小数点以下第2位を四捨五入した。
- 3 文中及び表中に用いる面積は、原則として1平方メートル未満を四捨五入し、体積は、原則として1立方メートル未満を四捨五入した。
- 4 上記のように表記した結果、文中及び表中の合計数値とその内訳の累計値とは、一致しない場合がある。
- 5 表中の符号の用法は、次のとおりである。
  - 「0」「0.0」・・・金額、比率において、零又は該当数値がないもの若しくは単位未満のもの
  - 「－」・・・・・・・・比率において、±1,000%以上のもの
  - 「△」・・・・・・・・金額、比率において、負数のもの



## 平成 27 年度河内財産区会計歳入歳出決算審査意見

### 第 1 審査の対象

審査の対象は、平成 27 年度河内財産区会計歳入歳出決算、決算に関する証書類、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書である。

### 第 2 審査の期間

審査の期間は、平成 28 年 8 月 31 日から同年 10 月 12 日までである。

### 第 3 審査の方法

審査の方法は、同会計の歳入歳出決算について、主に次の諸点に着眼し、関係書類により照合審査するとともに、関係職員に説明を求め、例月現金出納検査の結果も参考とした。

- 1 決算の計数は、正確に表示されているか。
- 2 決算書等は、法令の定めるところにより、適正に作成されているか。
- 3 予算は、適正に執行されているか。

### 第 4 審査の結果

審査の結果、同会計の歳入歳出決算の計数は正確で、決算書等はいずれも適正に作成されており、予算の執行については、適正に執行されているものと認めた。歳入歳出決算の状況等は、次のとおりである。

#### 1 歳入歳出決算の状況

歳入決算額は 42 万 7 千円（表 1 参照）、歳出決算額は 28 万 5 千円（表 2 参照）で、歳入歳出差引額は 14 万 2 千円である。

歳入及び歳出それぞれの内訳は、以下のとおりである。

#### (1) 歳 入

歳入の内訳は表 1 のとおりで、決算額の主なものは、繰入金 28 万円、繰越金 14 万 6 千円である。

表 1 歳入内訳表

（単位：千円・％）

区分 予算科目(款)	平成27年度				平成26年度		対前年度決算	
	予算現額	決算額			決算額	構成比	増減額	増減率
		金額	構成比	予算比				
財産収入	2	1	0.2	50.0	1	0.3	0	0.0
繰入金	288	280	65.6	97.2	230	61.8	50	21.7
繰越金	150	146	34.2	97.3	140	37.6	6	4.3
諸収入	10	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	450	427	100.0	94.9	372	100.0	55	14.8

## (2) 歳 出

歳出の内訳は表2のとおりで、決算額の主なものは、議会費20万4千円、財産費6万5千円である。

表2 歳出内訳表

(単位:千円・%)

区分 予算科目(款)	平成27年度				平成26年度		対前年度決算	
	予算現額	決算額			決算額	構成比	増減額	増減率
		金額	構成比	執行率				
議会費	234	204	71.6	87.2	204	90.3	0	0.0
総務費	45	14	4.9	31.1	0	0.0	14	0.0
財産費	136	65	22.8	47.8	20	8.8	45	225.0
基金積立金	2	1	0.4	50.0	1	0.4	0	0.0
予備費	33	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	450	285	100.0	63.3	226	100.0	59	26.1

## 2 財産に関する調書

財産の平成27年度中の増減高及び平成27年度末現在高は、次のとおりである。

### (1) 公有財産

公有財産の状況は表3のとおりで、土地と建物の面積に増減はなく、平成27年度末現在高は、土地が13万278平方メートル、建物が木造1棟63平方メートルである。

立木の推定蓄積量は、平成27年度中に361立方メートル増加し、平成27年度末現在高は2万2,006立方メートルである。

表3 公有財産の状況

区 分		単位	平成26年度末現在高	平成27年度中増減高	平成27年度末現在高
土地	山 林	m <sup>2</sup>	130,278	0	130,278
建物	河内公民館	m <sup>2</sup>	63	0	63
立木の推定蓄積量		m <sup>3</sup>	21,645	361	22,006

### (2) 基金

基金は河内財産区財政調整基金で、表4のとおり平成27年度中に27万9千円減少し、平成27年度末現在高は490万9千円である。

表4 基金の状況

(単位:千円)

区 分	平成26年度末現在高	平成27年度中増減高	平成27年度末現在高
河内財産区財政調整基金	5,188	△ 279	4,909

### 3 まとめ

平成 27 年度は、財政調整基金からの繰入金歳入が歳入全体の 65.6 パーセントを占めており、今後においても、歳入全体に占める繰入金歳入の比率は高くなるものと考えられることから、より効率的な財政運営に取り組まれるよう望むものである。

なお、木材の利活用など新たな歳入確保についても検討を望むものである。

平成 2 7 年 度

波 瀨 財 産 区 会 計  
歳 入 歳 出 決 算 審 査 意 見 書

津 市 監 査 委 員

## 凡 例

- 1 文中及び表中に用いる金額は、原則として千円未満を四捨五入した。
- 2 文中及び表中に用いる比率は、原則として小数点以下第2位を四捨五入した。
- 3 文中及び表中に用いる面積は、原則として1平方メートル未満を四捨五入し、体積は、原則として1立方メートル未満を四捨五入した。
- 4 上記のように表記した結果、文中及び表中の合計数値とその内訳の累計値とは、一致しない場合がある。
- 5 表中の符号の用法は、次のとおりである。
  - 「0」「0.0」・・・金額、比率において、零又は該当数値がないもの若しくは単位未満のもの
  - 「-」・・・・・・比率において、±1,000%以上のもの
  - 「△」・・・・・・金額、比率において、負数のもの

## 平成 27 年度波瀬財産区会計歳入歳出決算審査意見

### 第 1 審査の対象

審査の対象は、平成 27 年度波瀬財産区会計歳入歳出決算、決算に関する証書類、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書である。

### 第 2 審査の期間

審査の期間は、平成 28 年 8 月 31 日から同年 10 月 12 日までである。

### 第 3 審査の方法

審査の方法は、同会計の歳入歳出決算について、主に次の諸点に着眼し、関係書類により照合審査するとともに、関係職員に説明を求め、例月現金出納検査の結果も参考とした。

- 1 決算の計数は、正確に表示されているか。
- 2 決算書等は、法令の定めるところにより、適正に作成されているか。
- 3 予算は、適正に執行されているか。

### 第 4 審査の結果

審査の結果、同会計の歳入歳出決算の計数は正確で、決算書等はいずれも適正に作成されており、予算の執行については、適正に執行されているものと認めた。歳入歳出決算の状況等は、次のとおりである。

#### 1 歳入歳出決算の状況

歳入決算額は 80 万 5 千円 (表 1 参照)、歳出決算額は 70 万 7 千円 (表 2 参照) で、歳入歳出差引額は 9 万 8 千円である。

歳入及び歳出それぞれの内訳は、以下のとおりである。

#### (1) 歳 入

歳入の内訳は表 1 のとおりで、決算額の主なものは、繰入金 50 万円、繰越金 18 万 2 千円である。

表 1 歳入内訳表

(単位:千円・%)

区分 予算科目(款)	平成27年度				平成26年度		対前年度決算	
	予算現額	決算額			決算額	構成比	増減額	増減率
		金額	構成比	予算比				
財産収入	122	123	15.3	100.8	64	9.1	59	92.2
繰入金	500	500	62.1	100.0	460	65.2	40	8.7
繰越金	182	182	22.6	100.0	181	25.7	1	0.6
諸収入	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	804	805	100.0	100.1	705	100.0	100	14.2

## (2) 歳 出

歳出の内訳は表 2 のとおりで、決算額は、議会費 48 万 7 千円、総務費 13 万 3 千円である。

表 2 歳出内訳表

(単位:千円・%)

区分 予算科目(款)	平成27年度				平成26年度		対前年度決算	
	予算現額	決算額			決算額	構成比	増減額	増減率
		金額	構成比	執行率				
議 会 費	537	487	68.9	90.7	471	90.1	16	3.4
総 務 費	142	133	18.8	93.7	52	9.9	81	155.8
災害復旧費	87	87	12.3	100.0	0	0.0	87	0.0
予 備 費	38	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	804	707	100.0	87.9	523	100.0	184	35.2

## 2 財産に関する調書

財産の平成 27 年度中の増減高及び平成 27 年度末現在高は、次のとおりである。

### (1) 公有財産

公有財産の状況は表 3 のとおりで、土地の合計面積に増減はなく、平成 27 年度末現在高は 100 万 9,635 平方メートルである。

立木の推定蓄積量は、平成 27 年度中に 2,051 立方メートル増加し、平成 27 年度末現在高は 12 万 377 立方メートルである。

出資による権利については、平成 27 年度中の増減はなく、平成 27 年度末現在高は 57 万円である。

表 3 公有財産の状況

区 分		単位	平成26年度末現在高	平成27年度中増減高	平成27年度末現在高	
土 地	宅 地	m <sup>2</sup>	1,208	0	1,208	
	雑 種 地 ・ 原 野	m <sup>2</sup>	887	0	887	
	山 林	直 営	m <sup>2</sup>	1,006,806	0	1,006,806
		貸 付	m <sup>2</sup>	733	0	733
	合 計	m <sup>2</sup>	1,009,635	0	1,009,635	
立木の推定蓄積量		m <sup>3</sup>	118,326	2,051	120,377	
出資による権利		千円	570	0	570	

### (2) 基 金

基金は波瀬財産区財政調整基金で、表 4 のとおり平成 27 年度中に 48 万 8 千円減少し、平成 27 年度末現在高は 1,385 万 9 千円である。

表4 基金の状況

(単位：千円)

区 分	平成26年度末現在高	平成27年度中増減高	平成27年度末現在高
波瀬財産区財政調整基金	14,347	△ 488	13,859

### 3 まとめ

平成27年度は、財政調整基金からの繰入金が歳入全体の62.1パーセントを占めており、今後においても、同基金からの繰入金を必要とする状況が考えられることから、より効率的な財政運営に取り組まれるよう望むものである。

なお、木材の利活用など新たな歳入確保についても検討を望むものである。